

ちなみに、

こんにちは、きみちゃんです。6月29日に田皆小のPTAで「田皆の子どもを育む会」が開催され、昨年12月にスタートした「放課後のまなび場」の活動報告をさせていただきました。子どもたちの様子を地域のみなさまにお伝えできてほっとひと安心。今後もよろしくお願ひします!



六月十六、十七日にあしびの郷で開催された島民創作ミュージカル「えらぶ百合物語」、みなさん、ご覧になりましたか？ 沖永良部を舞台に描かれる、百合がつかない大切な愛の物語…。そんな「えらぶ百合物語」二〇一八の誕生秘話を、沖永良部高校三年生の出演者四人に聞いてきました！

志布志市出身の演出家、松永太郎さんの演出による「えらぶ百合物語」は今回で四回目の公演。第一回公演は平成二十三年一月で、過去三回公演されてきました。ユリ役の盛梨友さんは小学四年生のときに第一回公演に出演してから今回で四回目のフル出演！リリ役の松元さくらさんは小五から三回目、ナミ役の藤田和さんは小六から二回目の出演ということで、女子三名は小学生のときに共演し、それ以来ずっと「またやりたいね」と話していたんだそうです。

そんな三人、高校二年生になったとき、「やっぱり島を出る前にもう一度やりたい！」という気持ちをおさえきれず、昨年五月、生涯学習課のドアをたたくことになりました。そんな想いを受け止め、太郎さんに届けてくれたのが、生涯学習課の藤崎さん。三人は七月七日に自分たちの願いが叶ったことを知りました。「まさか本当に叶うとは思っていませんでした。最初は信じられなかった」とロク々に語る三人の顔は今でも喜びにあふれていました。七夕に叶った願い。きっと三人にとって忘れられない七夕になったことでしょう。そうして、三人は前田真輝さんを誘い、もともと歌が好きだったという真輝さんが仲間に加わりました。「最初は興味があつた、というだけだったけど、練習を重ねていくたびにのめりこんでいきました」と語る真輝さんは物語のキーとなるアイザック役。その歌の勢いにわたしもすっかり惹きこまれてしまいました。

「小学生のときはやることに夢中でよくわかっていなかったけど、今回は本当に自分の気持ちとして言葉が口から出るようになって、この年齢になつたらから理解できることがたくさんありました」。小学生のときにも経験したからこそ感じられる成長もあつたようで、三人にとって「えらぶ百合物語」はまさに、自分たちをこの地につなぐものなのかもしれません。



1_パンフレット撮影時のヒトコマ。みんないい顔！ 2_沖泊海岸清掃にご協力いただきありがとうございました！ 3_まなび場にアナログゲームのご寄付をいただきました！ 4_海洋ごみの調査、はじめました！ 5_誰にも気づかれませんが、実は「西郷どん」出てました…。